# 令和５年度　学校評価報告書（目標設定）

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ・本校の特色・生徒の進路実現に沿ったカリキュラムを編成する。<br>・コミュニケーション能力、ICT 運用能力を高めさせる授業を推進する。<br>・生徒が主体的に学習に臨むための課題設定や家庭学習の推進、講習などへの参加を促進する。 | ⑴新カリキュラム各科目の特性を踏まえた授業研究を進め、成果を共有する。<br>⑵ICT 機器などの適切な利活用によって生徒の学習意欲を高め、生徒理解を深めつつ授業改善に取組む。<br>⑶長期休業中の講座について、数・質ともに充実させ、個別指導や自習についてもより効果的に行われるよう検討する。 | ⑴教員全体で授業研究に取組み、研究成果を共有する機会を複数回設け、授業改善に生かされたか検証する。<br>⑵BYOD を活用した授業の実践例を蓄積し、改善の成果を全体で共有する。<br>⑶長期休業中の講座について、ニーズをよく聞き取り、各教科とその内容を共有する。 | ⑴研究会を複数回開催できたか。<br>授業改善に生かされたか。（生徒による授業評価）<br>⑵ICT 機器を活用した授業改善の実践例をまとめられたか。それらの成果を教員全体で共有できたか。<br>⑶長期休業中の講座の数・質ともに充実させることができたか。 |
| 2 | （幼児・児童・）<br>生徒指導・支援 | ・学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動を通じ自主自立の精神を確立し、次世代を担えるリーダーの育成に努める。<br>・挨拶を軸とした規律ある学校生活を確立させる。<br>・教育相談体制を更に充実させる。 | ⑴生徒が積極的・能動的に社会に貢献し、次世代のリーダーとして活躍する力を養う。<br>⑵新入生の部活動加入率と継続率が上がり、部活動が活性化するように支援する。<br>⑶図書館の利用率や貸出件数が上昇するように取組む。<br>⑷生徒と協働する活動を通して、学校生活の構築を行う。<br>⑸外部機関との連携を通して、幅広い支援体制を構築する。 | ⑴委員会が円滑に機能して主体的に行事の企画や運営ができるように支援し、社会貢献する資質が身につくように指導する。<br>⑵新入生が部活動に対して興味を持つようにオリエンテーション等を活性化させ、部活動加入率を向上させる。また、入部後の活動が継続するように支援を工夫する。<br>⑶図書館の利活用を促すとともに読書活動への啓発を積極的に行う。<br>⑷登下校指導などを生徒や保護者等と連携して行う。<br>⑸外部機関との連携を強化し、生徒支援を有効に行う。 | ⑴行事後のアンケートにおいて、満足度や達成度が 80%以上となったか。<br>⑵新入生の部活動加入率が 80%以上となっているか。<br>⑶貸出率が昨年度の 43%以上となっているか。<br>⑷規律ある学校生活を確立に向けた活動を、生徒と協働して複数回行うことができたか。<br>⑸共有した情報を基に、生徒への支援体制を強化することができたか。 |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| ３ | 進路指導・支援 | ・希望の進路実現のために、高校入学後の早期に進路意識を高めさせる。 | ⑴１年生インターンシップへの全員参加を目指す。<br>⑵１年生に対して、職業意識を高めるプログラムを進行する。<br>⑶学校推薦型選抜及び総合型選抜の希望者に対する指導を強化する。<br>⑷外部テストの事後指導の強化をし、四年制大学への進学率を高める。 | ⑴インターンシップ受け入れ事業所を確保するとともに、「仕事のまなび場」への参加及び職業調べを課題として用意する。<br>⑵職種の紹介から理解までを朝の読書活動や総合的な探究の時間で行う。<br>⑶希望者との個人面談を早期に行い、必要な対策をきめ細かく行う。また、面接や文書の指導に、全教員で組織的に取組む。<br>⑷外部テストの振り返りを適切に行い、結果個人票の効果的な活用を進める。教員に対する研修を進め、指導力を高める。 | ⑴インターンシップが職業観を育てるうえで有効な教育活動となったか。<br>⑵職業理解のプログラムを１学期に３回以上行うことができたか。<br>⑶３年生全員への個人面談が４月中に実施できたか。また、面接や文書の指導を効果的に実施することができたか。<br>⑷個人結果の振り返りを強化することによって、２回目の外部テストにおいて、大学進学を希望する生徒の60%以上が成績上昇したか。 |
| ４ | 地域等との協働 | ・シチズンシップ教育及びボランティア活動を通じて、主体的に社会の形成に参画する意識を醸成する。<br>・地域の教育力を活用した学びをとおして、家庭や地域社会との共通理解を深めさせる。 | ⑴コロナ禍で制限されていた諸活動を再開し、生徒が主体的に参加する企画を地域と連携して実施する。<br>⑵学校 HP を適宜更新し常に新しい情報を地域と中学生に発信する。 | ⑴関係機関との連絡を密にし、安全かつ充実した活動ができる態勢を整える。<br>⑵HP の更新に関る校内の体制を充実させるとともに、本校の特色や取組が伝わる見やすい画面構成を心がける。 | ⑴一連の企画を関係機関と連絡を密にとりながら準備態勢を確立し、実施できているか。<br>(2) ⑵閲覧者の視点に立ち迅速な更新がなされているか。 |
| ５ | 学校管理<br>学校運営 | ・コンプライアンスを重視した事故不祥事の防止の継続的な取組を行う。<br>・安全、安心で円滑な学校生活が送れるような校内環境を維持する。<br>・教職員が心身ともに健康的に教育活動に従事できる職場環境を整備する。 | ⑴個人情報管理を重点課題とし、職員の意識向上を図る。<br>⑵コロナ禍にける感染予防対策の継続と災害時の自助能力の向上を図る。<br>⑶ICT 環境を整備して業務の効率化を図り、働き方を改善する職員間の意識醸成を推進する。 | ⑴不祥事防止の仕組みづくりを意識した業務改善に取組む。<br>⑵感染症予防に関する設備・備品の拡充、防災備蓄の充実、防災教育の推進を図る。<br>⑶教育の情報化を進めるとともに、管理職主導のファミリーデーの積極的な活用を促す。 | ⑴情報管理に係る点検体制を強化して事故を防止できたか。<br>⑵社会情勢に応じた感染症予防策を講じることができたか。防災教育を推進できたか。<br>⑶ICT 環境の拡充ができたか。年休取得率の向上や時間外勤務の減少が見られたか。 |